

科目名	幼児教育指導法				担当	千葉 直紀		
形態	講義	単位数	2	開講時期	2年後期	実務経験	保育士として保育施設で勤務経験有	
必修	卒業：必修 幼免：必修				ナンバリング	Y3110	DPとの関連	3
授業概要	子どもの主体的で対話的な育ちを支えるために、保育者に求められる教育の方法や技術を理解する。また、教育のねらいを達成するための実践方法を理解し、具体的な教育方法を自分自身で考え、発展させていく力を身につける。							
到達目標 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解し、身につける ・教育の目的に適した指導技術の理解と情報機器を活用した教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける 							
授業計画	回	内容						
	1	幼児期の教育（1）	幼稚園教育要領から考える幼児教育					
	2	幼児期の教育（2）	「資質・能力」を育成するために必要な教育方法の理解					
	3	幼児の発達特性と指導（1）	幼児期の発達特性に応じた教育方法の在り方について					
	4	幼児の発達特性と指導（2）	幼児期の発達特性に応じた教育方法の発展性について					
	5	幼児の発達特性と指導（3）	幼児期の発達特性に応じた教育方法についての考察					
	6	子どもの育ち合いと保育実践（1）	子どもの主体性や対話を通じた集団の育ちに関する教育方法と技術					
	7	子どもの育ち合いと保育実践（2）	集団での育ち合いと保育者の援助についての考察①					
	8	子どもの育ち合いと保育実践（3）	集団での育ち合いと保育者の援助についての考察②					
	9	幼児教育における保育教材の理解（1）	保育教材の選定と教育の目的との関連性について					
	10	幼児教育における保育教材の理解（2）	保育教材の活用と実践の発展について					
	11	計画に基づいた教育実践	計画に基づいた教育方法の実践と子どもの育ち					
	12	計画に基づいた教育実践と保護者への働きかけ	計画に基づいた教育実践から、保護者と共に育ち合う保育の実践方法について学ぶ					
	13	保育現場における情報機器の活用	視聴覚教材の活用例についての理解やメディアリテラシーについて考える					
	14	小学校との連携（1）	主体性・自主性を育てる教育方法の考察					
15	小学校との連携（2）	生涯に渡って生きぬく力を育てるための保育技術や方法の考察						
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の発達特性を理解し、幼児期における指導のあり方について自分の考えを述べられるか ・小学校との連携の重要性を理解しているか 							
評価方法	授業態度 20%（振り返りシートの内容・提出） 期末試験 80%							
フィードバック方法	学生が講義内で書いた振り返りシート内容を提示し、それについて講評する							
アクティブラーニング	グループワーク							
教科書	必要に応じて授業内にプリントを配布する							
参考書	幼稚園教育要領解説							
履修条件	予習・復習：幼稚園教育要領の熟読。教育要領の文言から現場の子どもの姿がイメージできるようにすること							
授業外学習	事前学習：実習等で経験した実践知を学問や自己の課題と照らし合わせる（各回 30分） 事後学習：提出物等に関する文献での調べものやまとめ作業（各回 1時間）							
オフィスアワー	オフィスアワーの時間は、掲示板に掲示する							